

LIBRARY



目次

私の愛蔵本-N・M・ペンザー旧蔵『物語の河の海』
 留学生日本語教育センター長 奥西峻介(2)
 ブダベスト最新「古本屋」案内 助教授 早稲田みか(3)
 本と私 図書館と私 助教授 橋場弦(5)
 平成10年度貸出図書ベスト30 (6)
 学生貸出図書・学年別図書館利用統計 (7)
 平成11年度学術講演会のお知らせ (8)
 リクエストの申込書が変わりました! (9)
 本学関係者からの寄贈図書一覧 学術情報係(10)
 第11回資料展示会について—大阪外国語大学史資料展—
 各種プロジェクト進捗状況について (12)

大阪外国語大学附属図書館 1999.11.25

INFORMATION

第12号

私の愛蔵本——N・M・ペンザー旧蔵『物語の河の海』

留学生日本語教育センター長

奥西峻介

外国の古書とのつきあいは学生時代からで、かれこれ30年を越える。某国の露店バザールでアルファベットがぜんぜん読めない店主から買ったドイツ語の名著、取引のトラブルの詫びに安価で譲られた珍籍など、入手に思い出の多い本もある。名のある製本師による装幀、各葉に摺師までも明記してある銅版画挿し絵など、眺めるだけで楽しい美術品もあれば、かつては存在さえも知らなかったのに、読後に世界観を変えさせた書物もある。これまでに出会い、愛着の弥増す本は少なくない。

しかし、いま特に語るべき一書を問われれば、N・M・Penzer『物語の河の海 (The Ocean of Stories)』(1924-28)の編者旧蔵本である。原書は11世紀に成立したサンスクリット物語集『カター・サリット・サーガラ』。書名は話型がユーラシア大陸全域に流布する種々の説話の湊会を諷諭する。唯一の現代語全訳であるC・H・Tawneyの英訳二折本2巻(1880-87)をペンザーが四折本10巻(1924-28)に再編し、署名入りで1500部限定出版した。トーニーの英訳初版はベンガル王立亜細細協会から少数数板行されたもので、久しく稀覯であった。ペンザーはそれを増補し、広汎な註をつけ、さらに主要項目については巻末に論じ、最終巻を詳細な索引に当てたのである。ペンザーの版も希少となり、今はインドから低廉な複製本(近く本館に収蔵予定)が出ている。

ペンザーの註は、この分野の最盛期の成果を踏まえたもので、日本語抄訳岩本裕は「民俗學的にも比較文學的にも極めて貴重であり、また興味深いものであるが、少々繁雑に過ぎる憾がないではない」(1954岩波文庫I・202頁)と言う。管見によれば、ひとりインド説話に限らず、比較民俗学ならびに説話研究には看過しがたく、ヘロドトスを読む際のW・W・How & J・Wells『ヘロドトス註解 (A Commentary on Herodotus)』(1912)に匹敵する。あるいはフレーザー『旧約聖書のフォークロア』3巻本(1918)に対するTh・Gaster『旧約聖書の神話と伝説と習俗 (Myth, Legend and Custom in the Old Testament)』(1969)を越える。巻末論文の中の6篇は後年(1952)『毒娘 (Poison Damsels)』の書名の下に補綴出版されたが、他に

も羽衣伝説を扱った「話型『白鳥娘』、アルコールの語源にかかわる「アイシャドー考」など今日でも見るべきものが少なくない。第10巻300余頁を費やした索引はフレーザー『金枝篇』第3版第13巻(1935)のそれに遜色ない。

いま述べたような本書の価値は、あるいは夙に公知のことかもしれない。ただ、著者が後々まで手許に置いた旧蔵本はさらに彼の学問を語っているようだ。

初版訳者の息子A・Tawneyから寄せられた、再版ならびに寄贈に対する感謝状2通が挿まれている。また、本書に対する書評、紹介記事の夥しい数の切り抜きが全巻の余白に貼付されている。そして、さらに重要なのはペンザー自身の訂正と補筆である。もちろん、添削は巻が進むにつれて少なくなっていくが、配本中も再三、推敲を重ねていたことが分かる。また、他書からの関連記事や論文の抜粋、それにタイプ原稿が挿入されているから、補訂版を計画していたのであろう。加筆は巻末論文 (terminal essays) と呼ばれるアペンディスクが目立つ。上記の『毒娘』に漏れたものも纏めて上梓するはずであったのか。晩年まで続いた研究の姿を髣髴とさせる。

ペンザーは、他に『ペンタメロン』や『マルコ・ポーロの旅行記』『ルキアノスの対話』などを註解した。『アラビアン・ナイト』の英訳者R・Burtonの伝記も書いた。代表的な著書の一つ『The Harem』(1937)は『トプカプ宮殿の光と影』の題のもとに邦訳(岩永博訳1992)されている。彼は終生、教鞭を執らなかつたようである。ヴィクトリア朝ディレタンテ(文人)の伝統を継ぐ最後の一人だった。その最愛の自著架蔵本はついに海を渡り極東まで流れて、今は私の座右にある。

ブダペスト最新「古本屋」案内

地域文化学科助教授（ハンガリー語）

早稲田 みか

このところほぼ毎夏のようにハンガリーを訪れている。1年ぶりのブダペスト。したいこと、行きたいところは山ほどあっても、商売柄どうしてもかなりの時間は本屋巡りに費やされることになる。新刊書の本屋から古本屋まで、ブダペストにあるいい本屋はすべて見て回らないと気持ちがおさまらないのだ。というのも、古本屋はいうに及ばず、新刊書の本屋さえも、おいてある本はかなりまちまち。新刊の本だからといってどの本屋でも買えるわけではないからだ。いつでも買えるとたかをくくっていると、結局買えずじまいになってしまう。

さてブダペストには現在、およそ60軒の古本屋があるが、資本主義体制への移行は古本業界にも大きな変革をもたらした。古い貴重な稀覯本を扱う専門店から雑本も扱うなんでもありの古本屋まで、それぞれの店の性格が急速に細分化しているのである。



ペスト（ブダペストは、ドナウ川をはさんで右岸のブダと左岸のペストからなっている）の、と

あるアパートの2階にひっそりと店を構える「ボルダ」は稀覯本の専門店。営業時間は火曜と木曜の午後4時から8時まで、それ以外の時間に行きたいときは前もって予約をしなければならない。立派なカタログをつくっていて、そこには数百年前のハンガリーの貴重本がずらりと並んでいる。著名なハンガリー作家の自筆の手紙をはじめ、ハンガリーを代表する詩人アディ・エンドレが使っていたトラムの定期券といった珍品もある。ここは真の蒐集家のための店で、値段の方もやはりそれなりのもの。私は今年（1999年）ここで、なかなか入手できなかった稀覯本（と自分では思っている）をようやくわがものにすることができた。言語学徒にとってはまことに貴重なクニェジャ・イシュトヴァーン著『ハンガリー語語彙におけるスラブ諸語からの借用語』の2巻本（1955年）である。

「ボルダ」のご主人であるボルダ氏は社会主義時代から長年、ブダペストで最大かつ最古の古本屋「ケスポンティ [中央]」で働いていた。ムゼウム環状通りにあるこの古本屋は現在でもその地位を保っているから、ここも訪れないわけにはいかない。この近くには「ホンテルス」や「ウリッセス」などいくつかのいい古本屋が集まっており、東京の神保町にはもちろんはるかに遠く及ばないにしても、ブダペストの古本屋街といえるかもしれない。ここには大きな郵便局があり、買い集めた本をその場で梱包して日本に発送するという肉体労働のあとでほっと一息つける、エアコンの入った大きなこちよいホテルもある。

「ボルダ」と同じ路線をいくのが、最高級ホテル「ケンピンスキ」内にも支店を構える「フォルガーチ」。ここも本店のほうはいつ行っても閉まっていたりなかなか中に入れない。私のごく親しい知人は、ケンピンスキ店のウィンドウに長年探していた建築関係の本をみつけて小躍りしたものの、ドアはしっかりと閉まっていた、そこには「直ぐに戻ります」のかけ札。ところが、待てどくらせど店主はもどってこない。ついには怒りのメッセージを書き残して帰ってきたとか。

いつも観光客でごったがえしているヴァーチ通

りのはずれにある「ショーシュ」もいい古本屋だ。ここでは、王妃エルジェーベト（ウィーン風にいえば、皇妃エリーザベト）の自筆サイン入りオリジナル写真を見せてもらったことがある。マルギット橋のペスト側のたもとにある「カールパーティ&セーニ」もよく行く古本屋。しかし、このあたりはいいアンティークの店やギャラリーが密集しているので、時間に余裕のないときには近づかないほうが安全だ。アンドラーシ通りにあるブダペスト知識人御用達の新聞書店「イーローク・ボルチャ [作家の店]」の近くにも、必ず足を運ぶ「フォント」「シュトゥーディオ」という2軒のいい古本屋がある。どういうわけだろうか、「フォント」はいつ行っても日本の文庫本が積み上げてあって、日本ではとうの昔に手に入らなくなっているバラージュ・ペーラの名作童話『ほんとうの空色』（徳永康元訳）があったりするのだ。

じつは今年の夏は、このバラージュ・ペーラ作の『青ひげ公の城』（バルトーク作曲の同名のオペラのリブレット）を探していたのだが、ブダペストの古本屋ではとうとうみつからずもうあきらめていたところ、たまたま出かけたオーストリア国境に近い地方都市ゾンバトハイの古本屋でお目当ての本に遭遇した。それも、探していた版よりもずっといいものに。そういえば去年の夏は、北東

部の都市デブレツェンの古本屋で、これも首都では見つからなかった貴重な本をさがしあてたことがあった。まったくどこになにがあるかわかったものではない。まめに歩いて回るしかないのである。

それにしても今回悔しい思いをしたのは、アンドラーシ通りの起点の角にある「ビブリオテカー」で、ドボシュ・トルタ（スポンジとチョコレートが幾層にも重なっていて、てっぺんにカラメルがのっている。ウィーン菓子として紹介されることが多いが、じつはハンガリーのケーキ）の考案者で、ハンガリーの有名な料理人・菓子職人だったドボシュ・ヨージョフ（1847-1924）の『ハンガリーのフランス料理』をみつけたときのこと。すでにもう山のような本を抱えてふらふらしていたので、その場はあきらめて翌日あらためて出かけたのだが、時すでに遅し。本の中にあつた美しく彩色されたケーキのデザイン画が今でも脳裏に浮かび、思い出すたびに悔しさがいや増すのである。

新刊書、古書を問わず、「少しでも気になる本があつたらすぐその場で買うべし」とはいつも思うこと。しかし、この教訓は諸般の事情によりなかなか生かされない。幾度同じ過ちを繰り返してきたことか！来年こそは万全の体調と装備を整え、気をひきしめて本屋巡りにのぞみたいものである。



本と私 図書館と私

国際文化学科助教授（西洋史学）

橋場 弦

職業柄、一生書物を相手に暮らしてゆかねばならないのはしかたのないことだが、本を所蔵するがゆえの悩みもあれこれと所蔵者につきまとうものである。翻訳家の種村季弘氏のエッセーだったと記憶してるが、「こんなにたくさん本を持っている上にまだ買うの！」と奥方に氏が難詰されるという、涙ぐましいくだりがある。本当に他人ごとではない。現在私は専門書を大部分研究室に置いて仕事をしている。だがまだ本学に務める前、老朽化した木造下宿の2階に住んでいた大学院生時代には（その家は強い風が吹く日にはかすかに揺れ、2階にいと気分が悪くなるのだった）、間借りしていた四畳半に本を（駄本もふくめて）ぎっしりと置いていた。そのため、布団を敷くスペースしか残らなかったのはともかくとして、1階にすむ大家のおばさんの部屋の硝子戸が、私の部屋の荷重で閉まらなくなるという事態まで起きた。

図書館が本を所蔵する場所である以上、同様の問題がそれこそ四畳半とは比べものにならない規模で図書館関係者を脅かしているであろうことは、想像にかたくない。関係者のご苦勞には心底頭の下がる思いがする。

さて本学図書館を利用する楽しみは、私の場合、時間をかけて書庫をゆっくり歩いてみることである。ちょうど辞書や百科事典を調べる際に、ついで草してあれこれの項目をとりとめなく読み耽ってしまうのにも似て、専門である西洋史や西洋古典学関係の書棚はもちろん、それ以外の書物たちとの遭遇をも、多少かび臭いがひっそりとした静けさの中で、誰にも邪魔されずに楽しむことができる。思いがけずビュデ版やタイプナー版のギリシア・ラテン叢書を見つけたり、（もちろん私には読めないが）トゥキユディデスの『戦史』のアラビア語訳など、本学でなければ出会えそうもない書物にお目にかかることもある。広津和郎全集を見つけたときにはうれしくて何巻も借り出した。その他、なぜか卷子本スタイルの日本の古典の複写本が桐の箱の中に納めてあったりするの楽しい。

欧米の大学図書館をむやみにほめちぎることはしたくないが、ロンドン大学のSenate Houseにあ

る古典学研究所のJoint Libraryは、このような私的な楽しみをもっと本格的に味わえる場所である。西洋古代史や西洋古典学の研究者にとって、手を伸ばせば何でも必要なものがその1カ所にそろっているというのは、なにものにもかえがたい愉悦である。この図書館は、かつてゴードン・スクウェアにあったギリシア協会Hellenic Societyとローマ協会Roman Societyが一昨年このSenate Houseに引っ越してきた際にその蔵書もまとめて古典学研究所とジョイントし、新しくできたものである。ほとんどすべての蔵書は開架式で、書棚の間をさまようだけでも勉強になる。勉強机は一人分のスペースを広くとっており、紙を一杯ちらかしても周囲の迷惑になる気遣いはない。コンピュータ用の電源も一人に一つずつあり、もちろんノート型パソコンを使って勉強しているひともいるわけだが、案外ノートに細かな字でびっしりと抜き書きしている人の方が多い。コピー機は一台だけだが利用者たちはたがいに譲り合い、西洋古典研究者どうしの暗黙の連帯のようなものを感じてよこばしくなる。なによりうれしいのは、中世の修道院の写字室を思わせるような静寂である。利用者はみなそれぞれが古代ギリシア・ローマの世界との対話に没頭していて、無駄口をきく時間さえ借しんでいるかのごとくであった。

静寂で思い出したが、先日大阪大学の付属図書館を利用したとき、その騒がしさには啞然とした。学生が閲覧室でも声高に雑談している上に、なんと館内放送のスピーカーまでがそれに追い打ちをかけている。あれはなんとかなりませんかねえ。本学図書館があんな雰囲気じゃなくてほっとしている。

表紙の写真について

昭和15年、新京で発行されたモンゴルの新聞で、現在は所蔵が確認されている所はほとんどなく、貴重なものである。

そのポスターで、カレンダーがついている。

〔蒙古新聞・青旗〕

*** 平成 10 年度貸出図書 ベスト 30 ***

利用回数	請求記号	書名・著者名
17	801.03 226	社会言語学への招待, 社会・文化・コミュニケーション/田中春美, 田中幸子 編著
16	913.6 R	国境の南, 太陽の西/村上春樹著
14	290.8 R	地球の歩き方/地球の歩き方編集室編
13	291 R 12	京都/ブルガイト 編集部編
13	290.8 R	地球の歩き方/地球の歩き方編集室編
13	225 660	図説インド 歴史散歩/小西正捷, 岩瀬一郎編
11	290.8 R	はじめてのドイツ&オーストリア留学
11	290.8 R	地球の歩き方/地球の歩き方編集室編
10	801 1454	認知言語学のための 14 章/ジョン・R・テイラー [著], 辻幸夫
10	302.36 37	日本人には分からないスペインの生活/榎本和以智著
10	302.21 126	北朝鮮, その実像と軌跡, 専門家が伝える-政治・軍事・経済・対外 関係/伊豆見元 [ほか] 著
10	291 R	京都/ブルガイト ニッポン編集部編
10	290.8 R	地球の歩き方/地球の歩き方編集室編
10	225 580	インド 独立史/森本達雄著
9	913.6 R	ダンス・ダンス・ダンス/村上春樹著
9	808 34 6	生成文法/田窪行則 [ほか] 著
9	807 406	第 2 言語習得への招待/Diane Larsen - Freeman, Michael H. Lo ng 著, 牧野高吉, 萬屋隆一
9	801.03 21	言葉と社会/鈴木孝夫著
9	361.4 260	都市を飼い慣らす, アフリカの都市人類学/松田素二 [著]
9	319 510	国際政治経済の基礎知識/高坂正堯, 公文俊平編
9	302.21 125	入門朝鮮民主主義人民共和国/鎌倉孝夫 [ほか] 編
9	291 R 1	北海道/ブルガイト 編集部編
9	290 R 5	シカゴ・ル・マレーシア/ブルガイト 海外版出版部編
9	237 53	ファシズム体制, イタリア・ファシズムの歴史と特質/山崎功著
9	234.6 79	近代オーストリアの歴史と文化, ハプスブルグ帝国とオーストリア共和国/ハ ーバ ラ・ジ ェラウ ィツ著, 矢田俊隆訳
8	913.6 R	ルウエイの森/村上春樹著
8	831.1 49	英語音声学入門/竹林滋, 斎藤弘子共著
8	815.9 33	日本語の統語構造, 生成文法理論とその応用/三原健一著
8	801.12 43	音声学/城生佰太郎著
8	375.9 R	英語 I ('96), なぜ英語は難しいか/平賀正子, 藤井洋子著
8	329.2 68	国際公務員を目指す留学と就職, 国連・国際機関で働くプロ フェッショナル/グローバル・リンク・マネージメント編
8	302 543 8	イタリア人/アレックス・ロ・ファラーシ, レイモンド・フラー著, 篠原勝訳
8	302.2 133 [7]	上海&北京, 長期滞在者のための最新情報 55/宮崎真子著
8	302.25 119	もっと知りたいインド/佐藤宏 [ほか] 編
8	291 R 18	四国/ブルガイト 編集部編
8	291 R	札幌・小樽・函館, でっかい大志の北の街
8	290.8 R	地球の歩き方/地球の歩き方編集室編
8	255 138	ラテンアメリカが語る近代, 地域知の創造/上谷博, 石黒馨編
8	253 217	この一冊でアメリカの歴史がわかる!/猿谷要著

*** 学生図書貸出統計 (平成10年11月～11年10月) ***

区分 月	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計		
	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術工学	産業	芸術	言語	文学	冊数	人数	開架率
98. 11	132	250	823	1,554	111	107	67	153	685	871	4,753	5,058	
12	197	466	1,124	2,234	144	160	107	294	1,149	1,267	7,142	7,410	
99. 1	177	553	1,215	2,280	190	180	119	383	1,276	1,129	7,502	7,698	
2	88	300	259	1,223	93	137	78	176	850	944	4,148	4,890	
3	30	62	148	191	16	32	6	42	143	199	869	914	
4	65	128	449	668	37	48	30	72	529	599	2,625	2,815	83.05
5	159	302	744	1,260	105	172	77	179	794	705	4,497	4,789	83.81
6	200	364	937	1,621	125	182	80	208	954	862	5,533	5,858	84.80
7	187	462	1,226	2,063	122	176	72	300	1,349	1,260	7,217	7,482	84.72
8	44	66	215	487	35	35	13	52	315	235	1,497	1,597	81.52
9	154	436	1,203	2,120	127	153	110	239	1,296	938	6,776	7,099	87.89
10	142	338	963	1,720	134	97	72	183	970	979	5,598	5,918	84.69
合計	1,575	3,727	9,306	17,421	1,239	1,479	831	2,281	10,310	9,988	58,157	61,528	

*** 平成10年度学年別図書館利用統計 ***

月	昼間主				夜間主				院前期		院後期	
	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	1年	2年
4	2,155	1,176	1,293	1,877	292	340	403	395	441	291	100	93
5	3,135	2,496	3,131	3,267	454	751	1,086	934	704	511	121	160
6	3,989	3,178	3,689	3,731	569	860	1,224	1,016	770	580	113	164
7	3,319	2,538	2,821	3,590	580	748	819	958	501	431	91	121
8	278	259	437	798	80	93	72	151	105	87	13	36
9	5,110	4,473	4,246	4,412	914	1,100	1,004	1,050	440	390	61	76
10	3,598	3,334	3,819	5,569	667	936	1,263	1,219	599	463	85	109
11	2,729	2,387	2,863	4,277	423	673	840	818	499	334	67	89
12	2,681	2,353	2,810	5,006	431	631	958	875	440	325	91	56
1	4,805	4,120	4,135	3,969	604	839	885	945	376	252	54	59
2	2,141	2,168	2,037	1,733	364	604	539	477	201	149	33	40
3	69	87	273	360	43	90	34	71	78	72	32	29
	34,009	28,569	31,554	38,589	5,421	7,665	9,127	8,909	5,154	3,885	861	1,032

留学生	卒業生	教職員	学外者	その他	計
129	88	480	49	103	9,705
114	180	659	83	264	18,050
141	183	694	88	343	21,332
134	222	616	92	267	17,848
44	83	134	39	32	2,741
97	156	551	49	297	24,426
203	222	726	101	371	23,284
102	142	500	57	251	17,051
116	117	571	57	275	17,793
128	56	489	40	227	21,983
157	51	401	53	156	11,304
55	21	226	36	70	1,646
1,420	1,521	6,047	744	2,656	187,163

学 術 講 演 会

講演

◆ 日本神話と語源

吉田 金彦 姫路獨協大学名誉教授

◆ 戦争・地域・国際関係

—シンガポールにおけるインド兵の反乱 (1915) —

桑島 昭 大阪外国語大学教授

◆ 日時 / 平成11年12月2日 (木)

午後1時～4時

◆ 場所 / 大阪外国語大学附属図書館

4 F 視聴覚ホール

箕面市粟生間谷東8丁目1番1号

◆ 協賛 / 大阪外国語大学言語社会学会

入場無料

問い合わせ先 / 大阪外国語大学附属図書館総務係
電話 0727-30-5123

講 師

吉田 金彦 (よしだかねひこ)

1923年生

1949年 京都大学文学部卒業 (旧制)

1956年 京都大学大学院文学研究科退学

大阪外国語大学教授を経て

姫路獨協大学教授

現在 姫路獨協大学名誉教授

著書等

・埋もれた万葉の地名
・地名語源からの万葉集
・沼の司祭者額田の王
・上代語助動詞の史的研究

東京堂出版

東京堂出版

毎日新聞社

明治書院

他多数

桑島 昭 (くわじましょう)

1934年生

1960年 東京大学大学院社会科学研究科修了

国際学修士

現在 大阪外国語大学地域文化学科教授

著書等

・パキスタンのジャーナリスト マスハル・アリー・ハンさん
を偲ぶ 折り出版

・Post-war Upsurge of Freedom Movement
and 1946 Provincial Elections in India

・Indian Mutiny in Singapore (1915)

・「インド・ナショナリズム—インド国民会議派

成立百年を経て—『シリーズ・世界史
への問い10 国家と革命』 岩波書店
他多数

▽ リクエストの申し込み用紙が変わりました！ ▽

■ 外大図書館の本は、収書委員会という購入を決定する会議で選書されています。この委員会は、図書館委員会より選出された先生方4名と図書館員とで構成されていて、皆さんからの図書購入のご要望もこの会議上で検討されることになります。

今度から下記のような新しい申し込み用紙になりますので、これからも奮ってリクエストしてください。ただし次のような本は、特別な場合を除き購入対象から除外されますのでご注意ください。

- ① 文庫・新書本
- ② 資格試験・検定関係（問題集、体験談など）
- ③ 個人の趣味的要素の強いもの
- ④ How to もの

*収書委員会について

収書委員会は年間15回開かれます。収書方針としては、和書では外国（学）・言語学・外国研究の資料を雑書以外は網羅的に収集しています。その他の分野の和書及び洋書は、書評を通じて収集しています。利用者諸氏のリクエストはその都度決定しています。

図書購入リクエスト用紙

年 月 日

本のタイトル	
著者	
出版社・出版年・シリーズ名など（あれば）	価格_____円
書評がどこかに載っていましたか？（その掲載誌名）	
その他・希望理由	
購入決定後の貸出予約を希望する人は下記も記入して下さい。 あなたの氏名_____ 利用者番号_____ 所属_____ 学年_____	

本学関係者からの寄贈図書一覧(平成9年8月～平成11年10月)

伊藤 太吾氏
ロマ語基本語彙集/伊藤太吾
著/大学書林, 1997

伊藤 太吾氏
スペイン語からカリブ語へ/伊藤
太吾著/大学書林, 1998

伊藤 太吾氏
やさしいルーマニア語/伊藤太吾
著/大学書林, 1999

岡本 武氏
ロシア経済/小野堅, 岡本武,
溝端佐登史編/世界思想社,
1998

乙政 潤氏(名誉教授)
言葉の作法(ケツガ),あるい
はどのように、何を話すべき
か?/ライズイ著,乙政潤訳/同学
社, 1997

亀井 克之氏(卒)
フランス企業の経営戦略とリスクマ
ネジメント/亀井克之著/法律文化
社, 1998

宮本 正興氏
新書アフリカ史/宮本正興, 松田
素二編/講談社, 1997

宮本 正興氏
東アフリカにおける地域共通語
に基づく文化圏生成とエスニ
ティの構造/宮本正興著/[宮本
正興], 1999

桑島 昭氏
アジアからのメッセージ, アジア, 南ア
ジア, そして, インド/H. G. ハント
[ほか] 著/嵯峨野書院, 1999

郡 史郎氏
はじめてのタリ語/郡史郎著
/講談社, 1998

高田 博行氏(元教授)
18世紀のドイツ語文法の規範
性と記述性, 構文論と語順論
に関する基/高田博行著/[高
田博行], 1999

史 有為氏(元客員教授)
漢語如是觀/史有為著/北京
語源文化大学出版社, 1997

秋田 茂氏
創生と膨張1688-1914/P. J.
ケイン, A. G. ホーキンス著, 竹内
幸雄, 秋田茂訳/名古屋大学
出版会, 1997

出口 厚実氏
スペイン語学入門/出口厚実著/
大学書林, 1997

小川 聖子氏(卒)
二十世紀の洗礼者T. S. エリオ
ット, 詩と思想の創造的分析の
試み/小川聖子著/溪水社, 1999

小島 亮氏
A modernség
peremén, összehasonlító
tanulmány a magyar és
japán
agrárradikalizmusról/Kodz
sima Rió,/[Kossuth Lajos
Tudományegyetem], 1997

小矢野 哲夫氏
ワードウォッチング, 現代語のフォ
ロピイ/小矢野哲夫編/[小矢野
哲夫], 1999

松浦 寛氏
環境法概説/松浦寛著/信山
社, 1995

松浦 寛氏
人権保障の現状と課題/松浦
寛著/嵯峨野書院, 1996

松浦 寛氏
国家の組織と人権保障手続/
松浦寛著/嵯峨野書院, 1996

杉田 米行氏
ヴェーモアの逆説, アジア太平洋戦
争と米国の東アジア政策, 1941
年～1952年/杉田米行著/世
界思想社, 1999

清水 輝彦氏(卒)
地中海の向こう側/清水輝彦
著/日本図書刊行会, 1999

青野 繁治氏
東洋文論, 日本現代中国文学
論/呉俊編訳/浙江人民出版
社, 1998

石田 修一氏
新しい言語類型学, 活格構造
言語とは何か/G. A. クレモ著,
石田修一訳/三省堂, 1999

染田 秀藤氏
アンデス文化を学ぶ人のために
/友枝啓泰, 染田秀藤編/世
界思想社, 1997

染田 秀藤氏
ラス=カス/染田秀藤著/清水書
院, 1997

染田 秀藤氏
インカ帝国の虚像と実像/染田
秀藤著/講談社, 1998

染田 秀藤氏
メソコ史/フランソワ・ウエイムレル著,
染田秀藤, 篠原愛人訳/白水
社, 1999

相浦 綾子氏 (故相浦泉夫人)
考証・比較・鑑賞, 二十世紀
中国文学研究論集/相浦泉著
/北京大学出版社, 1996

村山 裕三氏
アメリカの経済安全保障戦略, 軍
事偏重からの転換と日米摩
擦/村山裕三著/PHP研究所,
1996

大原 信一氏 (卒)
中国の識字運動/大原信一著
/東方書店, 1997

大谷 長氏 (名誉教授)
キルゴール, セレン・キルゴールの
生涯と思想への手引き/ヤン
ン F. J. ビレスコ/創言社, 1997

池上 日出夫氏
アメリカ文学の源流マク・トウイン/
池上日出夫著/新日本出版
社, 1994

池上 日出夫氏
独立宣言 奴隷解放宣言とアメ
リカ, 文化・文学に見る/池上
日出夫著/青磁書房, 1998

中井 精一氏 (卒)
奈良県風俗誌 (二六類 言
語)/中井精一編/中井精一, 1998

苧阪 満里子氏
ワーキング メリカの脳内機構の研
究, 言語・空間処理の事象関
連電位による/苧阪満里子著
/[苧阪満里子], 1999

田尻 雅士氏
中世ブルターニュ妖精譚/関西古
フランス語研究会 [編訳]/関西古
フランス語研究会, 1998

田中 章夫氏 (元教授)
日本語の位相と位相差/田中
章夫著/明治書院, 1999

田中 泰子氏
ちょうちょ/T. マーガリテ絵, Yu.
コヴァーリ文, 田中泰子訳/ブッ
ク・グローヴ社, 1999

田和 (森栗) 茂一氏
しあわせの都市 (まち) はあ
りますか, 震災神戸都市民俗
学/森栗茂一著/鹿砦社, 1998

田和 (森栗) 茂一氏
都市民俗学の手法を生かし
た震災復興まちづくりのた
めの調査・研究/田和茂一著
/[田和茂一], 1999

梅津 和郎氏 (名誉教授)
新ヨーロッパ 現代史, 大欧州への
道/梅津和郎編著/創成社,
1997

米井 力也氏
判タンの文学, 殉教をうなが
す声/米井力也著/平凡社, 1998

門脇 朝秀氏 (卒)
風の旅人/門脇朝秀編/あけ
ぼの会, 1997

第11回資料展示会について

「大阪外国語大学史資料展」

附属図書館では、今年が本学創立 77 年、箕面移転 20 周年にあたるので、11 月 29 日～12 月 15 日、2 階閲覧室を中心にして大学史関係資料を展示する第 11 回資料展示会を行うことにした。本学の関係資料のうち、戦前・戦後の約 10 年位はほとんど

見つけ出すことが出来ない状態で、今後図書館ではこれらの資料の発見を急ぐとともに、館長室を資料書庫として、積極的に収集する方針で、関係者の皆さん（特に卒業生）のご協力をお願いする次第である。

各種プロジェクト進捗状況について

<ヒンディー語>

ヒンディー語文献の書誌情報及び画像データベースの作成プロジェクト(科学研究費)

- ①ヒンディー語 10,000 冊のうち
929.8/3 学情登録 85%完了
929.8/1、929.8/2、929.8/4～6 学情登録 95%完了
929.8 書誌 90%完了 学情登録 20%完了
その他の部門 書誌 90%完了 学情登録 40%完了
- ②澤文庫 1,300 冊のうち
英語(400 冊)85%完了 和書 650 冊完了
ヒンディー語・ウルドゥー語(250 冊)0%
- ③武藤文庫 1,200 冊のうち
ヒンディー語(1,010 冊)約 70%
英語(190 冊)85%

<ビルマ語>

ビルマ語寄贈図書受入整理プロジェクト

- ①ヤンゴン大学中央寄贈図書(1,591 冊)完了
- ②原田文庫(1,358 冊)完了
- ③本学所蔵ビルマ語図書 0～7 門(300 冊)完了
- ④杉本文庫(950 冊)60%完了

<ウルドゥー語>

ウルドゥー語特殊言語遡及入力プロジェクト

- ①重複図書 486 冊整理
- ②929.81/1～2400 40%完了

<石濱文庫>

石濱文庫整理プロジェクト

現在、準備作業を行っている所で 12 月から作業に入る予定

<貴重図書>

田島記念財団奨学寄付金プロジェクト

- ①12 月から脱酸処理対象貴重図書の選別
- ②同様にマイクロフィルム化作業

◆編集後記◆

○平成 11 年度学術講演会は、例年に比べて少し遅れましたが、12 月 2 日に行われます。2000 年を目前にして、しばし日本語の源流と日本神話や、アジア史の断片に思いをめぐらせてみるのはいかがでしょうか。その中からひょっとすれば、我々の未来を予見できるような何かを思い出すことができるかも知れません。

○厳しい社会状況の中で本学図書館もまさしく、閉塞状況を呈しています。種々の新しい試みを行っているものの、現状の中の改革しか方途がありません。書庫の問題、閲覧室の拡大など、物理的要因によるものがほとんどで、何とか早期に解決することを期待しているのですが。

○図書館の電子情報化では、全蔵書数約 57.5 万冊のうち、37 万冊約 60%以上の書誌情報が出来ていますが、プロジェクトの進捗状況でふれてあるように、遡及入力はまだまだ進んでいません。特殊言語の翻字入力には、多大の予算を必要とします。5 カ年計画を作成し、予算要求も行ってはいますが、学内外のご協力で是非とも実現したいと考えています。

○平成 10 年度の図書館入館者は延べ 20 万人で、年間貸出冊数は、学生・教職員を合わせて 6 万冊以上で、例年とほぼ同じでした。また、開架図書の貸出は、その約 84%を占めています。

○図書館システムのリプレースを今年度末(平成 12 年 3 月)に行います。そのため、利用者の皆さんにご迷惑をおかけすることになると思いますが、どうかご理解とご協力をお願い致します。

(専門員 岸本晴広)